

相模湾より採集された日本初記録種のシロヒゲナマコ（新称）

Thyone benti（ナマコ綱：樹手目）

倉持卓司

Takashi Kuramochi: First Record of *Thyone benti*

(Holothuroidea: Dendrochirtida) Collected from Sagami Bay, Central Japan

はじめに

Thyone benti Deichmann, 1937 は、北部太平洋のワシントン州ピュージェット湾を模式産地として記載された、グミモドキ科の一種である (Deichmann, 1937)。本種は、北部太平洋に分布することが知られているが、これまでの日本周辺海域におけるナマコ類の主な報告 (Mitsukuri, 1912; Oshima, 1915, 1919; 今岡, 1995 など) において、本種に関する記録は見られない。筆者は相模湾より本種を採集したので、日本初記録として報告する。

本報告にあたり、ご助言をいただいた葉山しおさい博物館の池田等氏に感謝申し上げます。

試料

産地：神奈川県横須賀市佐島潮下帯転石域

2005 年 4 月 27 日 4 個体採集（葉山しおさい博物館
棘皮動物登録番号：HSM-E-0186 ～ 189）

2005 年 5 月 3 個体採集 (HSM-E-0190 ～ 0192)

記載

ナマコ綱 HOLOTHUROIDEA

樹手目 Dendrochirtida

スクレロダクティラ科 Family Sclerodactylidae

Genus *Thyone* Oken, 1815

Thyone benti Deichmann, 1937 シロヒゲナマコ（和名新称）（図 1）

体は、五角柱状で前・後端が共に細くなる。背・腹両面、体部管足ともに体色は乳白色。体色は生時および 70% アルコール固定時ともにほとんど変化はない。吻入部は体内に収縮する。触手は 10 本で、腹面の 1 対は著しく小さい。腹面の 1 対を除く他の触手は、基部より 2 分し、その後、樹状に分岐する。石灰環には短い後方突起がある。石管は 1 個。各歩帯には、発達した大きく長い対になる 2 列の管足が並ぶ。管足は腹面部

の方が若干短い。間歩帯には管足はない。呼吸樹は 2 本。ポーリ囊は 1 個。体壁には、やや高い 2 本の柱をもった塔をもつ櫓状骨片のみを有する。基盤は角の取れた菱形もしくは雲形で、4 ～ 10 の孔をもつ（図 3a-3h）。触手には、板状体の骨片をもつ（図 4a-4b）。70% アルコール固定標本の計測値は、体長 32.9-44.1mm。体部が固定標本ではやや屈折する。

比較

シロヒゲナマコは、これまでに相模湾の浅海帯より報告されている樹手目のイシコ *Eupentacta chronhjelmi* (Theel, 1886) および、グミ *Pseudocnus echinatus* (von Marenzeller, 1882) に外部形態は類似するが、両種とも

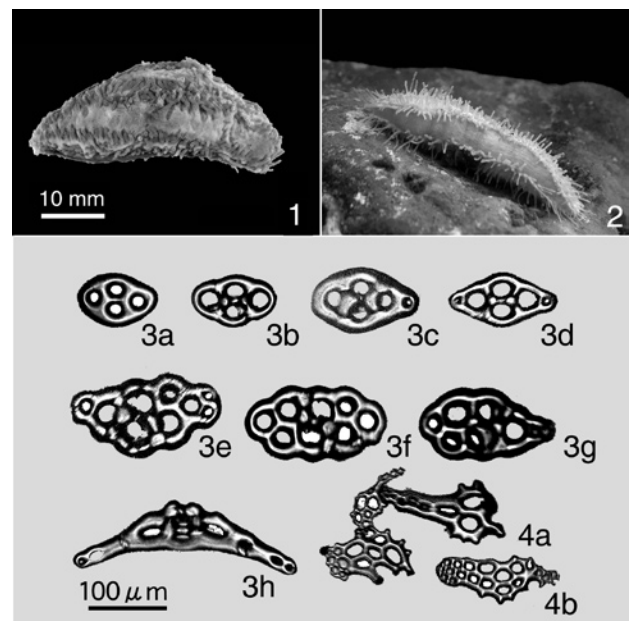


図 1. シロヒゲナマコ *Thyone benti* Deichmann, 1937

1. アルコール固定標本 (HSM-E-0192)

2. 生態

3a-3g, 3h. 体表部の櫓状骨片

4a-4b. 触手部の板状体骨片

明らかに骨片の形状がシロヒゲナマコと異なると同時にイシコの生時の体色は赤褐色であり、シロヒゲナマコに比べ各歩帯にみられる管足は短い。また、グミの生時の体色は、肌色に褐色の細かい点をもつことで区別される。

グミモドキ科のチオーネ亜科には、世界から8属が知られる(今岡, 1995)。フクロナマコ属 Genus *Stolus* は、体壁に板状骨片のみを有し、Genus *Pentamera* は、体壁に板状骨片と櫛状骨片の両方を有することで、本属とは異なる。チビフクロナマコ属 Genus *Allothyone* は、Genus *Thyone* と同様に体壁に櫛状骨片のみを有するが、櫛状骨片の塔は4本の柱からなることで異なる。また、Genus *Thorsonia* は、櫛状骨片の塔の柱が癒着することで異なる。

これまでに日本近海より Genus *Thyone* として *Thyone bicornis* Oshima, 1915 および、*Thyone nozawai* (Mitsukuri, 1912) の2種類が報告されている。駿河湾を模式産地として記載された *Thyone bicornis* Oshima, 1915 は、灰色の地に褐色の斑紋を有す体色をし、櫛状骨片は、正方形で、4つの大きな孔と4つの小さな孔を交互にもつことで本種と異なる。

北海道石崎を模式産地として記載された *Thyone nozawai* (Mitsukuri, 1912) は、本種に形態的に類似するが、体表に存在する雲形の櫛状骨片の孔が互い違いにならず、管足からの櫛状骨片の脚部先端に2つの孔をもつことで本種と異なる。

台湾海峡を模式産地として記載された *Thyone anomala* Oestergren, 1898 は、本種と近似した、菱形で4つの孔をもつ櫛状骨片を有するが、触手が黒色であり、石管を3個有することで異なる。

生息環境

シロヒゲナマコは、これまでに Queen charlotte 諸島から北カリフォルニアの潮下帯～水深135m、泥、砂、礫底に生息することが報告されている(Lambert, 1997)。今回、相模湾三浦半島沿岸では、いずれも潮通しの良い潮下帯の砂底および、転石下より生息が観察された。相模湾の同一の生息環境からは、これまでにマナマコ *Apostichopus japonicus* (Selenka, 1867) およびテツイロナマコ *Holothuria* (*Selenkothuria*) *moebii* (Ludwig, 1883) の生息が観察されていたが、本種が観察されたことはない(池田・倉持, 2005)。

シロヒゲナマコの日本周辺海域からの報告例は、これまでにない(Mitsukuri, 1912; Oshima, 1915, 1919; 今岡, 1995)。近年の池田・倉持(2004, 2005)による三浦半島相模湾沿岸や今岡(1998, 2000)による房総半島沿岸域の調査からもシロヒゲナマコは記録されていない。また、岩崎ほか(2004)によりまとめられた日本周辺海域におけ

る人為的移入種にも本種はふくまれていない。今回、相模湾において採集された個体は、いずれも人目の比較的つきやすい潮下帯より採集されているにもかかわらず、2005年以前の採集記録がないことから、近年、国外より移入された可能性も否定できないが、現在のところ、在来・移入種の詳細は不明である。また、今後、他海域における生息状況の確認など継続した調査を必要とする。

引用文献

- Deichmann, E. 1937. The templeton crocker expedition. IX. Holothurians from the gulf of California, the west coast of lowe California and Clarion Island. Zoologica (New York). **22**(10): 161-176.
- 池田等・倉持卓司, 2004. 三浦半島・南下浦沖(東京湾口)産ナマコ類. 神奈川自然誌資料, (25): 65-68.
- 池田等・倉持卓司, 2005. 三浦半島潮間帯産棘皮動物(ヒトデ・ウニ・ナマコ類). 神奈川自然誌資料, (26): 95-99.
- 今岡亨, 1995. ナマコ綱. 西村三郎編著, 原色検索日本海岸動物図鑑 II, pp. 553-572. 保育社, 大阪.
- 今岡亨, 1998. 外房沿岸のナマコ類. 千大海洋センター年報, (17): 14.
- 今岡亨, 2000. ナマコ綱. 千葉県自然誌, 本編7. 千葉県の動物2-海の動物-. pp. 377-381. 千葉県.
- 岩崎敬二・木村妙子・木下今日子・山口寿之・西川輝昭・西榮二郎・山西良平・林育夫・大越健嗣・小菅丈治・鈴木孝男・逸見泰久・風呂田利夫・向井宏, 2004. 日本に於ける海産生物の人為的移入と分散: 日本ベントス学会自然環境保全委員会によるアンケート調査の結果から. 日本ベントス学会誌, **59**: 22-44.
- Lambert, P. 1997. Sea cucumbers of British columbia, southeast Alaska and Puget sound. Royal British Columbia museum, 165pp. Canada.
- Mitsukuri, K. 1912. Studies on Actinopodus Holothurioidea. J. Coll. Sci., Tokyo Imp. Univ., **2**: 1-284.
- Oshima, H. 1915. Report on the holothurians collected by The United States Fisheries Steamer Albatross in the northwestern Pacific during the summer of 1906. Proceeding of the United States National Museum. **48** (2703): 213-291.
- Oshima, H. 1919. Holothurians collected by the U. S. "ALBATROSS" in the northwestern Pacific. 20. Zool. Mag., Tokyo, **31**(367): 139-149.

(葉山しおさい博物館気付)